

# 公共施設再編整備対策特別委員会会議録

令和7年12月5日

寒川町議会



出席委員 横手委員長、橋本副委員長  
山上委員、山田委員、茂内委員、柳田委員、馬谷原委員、吉田委員、黒沢委員  
岸本議長

説明者 青木企画部長、杉崎資産経営課長、芳賀主査、喜々津主事

案 件

1. 群馬県前橋市立桃井小学校視察結果報告について  
(企画部資産経営課)
2. その他

午後1時15分 開会

【横手委員長】 皆様、こんにちは。大変お疲れさまでございます。ただいまより公共施設再編整備対策特別委員会を開催いたします。

本日の案件は、次第のとおり、その他を含め2件となりますので、よろしく願い申し上げます。

なお、6月会議同様この12月会議におきましては、6月会議に実施いたしましたケーススタディーを皆様と共有するような形になるということをあらかじめご了承いただければ幸いです。

それでは、執行部が入室するまで暫時休憩いたします。

---

【横手委員長】 休憩を解いて会議を再開いたします。

それでは、案件1、群馬県前橋市立桃井小学校視察結果報告についての説明を求めます。

青木企画部長。

【青木企画部長】 皆様、改めまして、こんにちは。それでは、企画部資産経営課より案件1、群馬県前橋市立桃井小学校視察結果報告につきましてご報告申し上げます。なお、桃井小学校への視察につきましては、学校施設の複合化、多機能化に向けた先進地事例の調査として、本年8月4日に教育委員会とともに実施したものでございますが、今後の取組に当たりましては、各委員の皆様方からもご意見を賜りながら進めていきたいということから、本日その内容を共有させていただくものでございます。説明に当たりましては、杉崎資産経営課長より行いますので、よろしく願い申し上げます。

【横手委員長】 杉崎資産経営課長。

【杉崎資産経営課長】 それでは、資料に基づきましてご説明いたします。資料01資産経営課群馬県前橋市立桃井小学校視察結果報告についてをご覧ください。2ページ目の目次となります。今回ご報告、共有させていただく内容は4点となります。桃井小学校の概要から始まりまして、4点目の質疑応答の結果概要までとなります。

3ページをご覧ください。桃井小学校の概要となります。本年4月時点での児童数は387名で、学級数は12学級、特別支援学級が6となっております。面積、構造はここに記載のとおりでありまして、平成30年度より現在の新校舎で授業が開始となっております。複合多機能施設といたしましては、第1コミュニティセンターが802.22平方メートル、消防分団が102.00平方メートル、3施設の合計延べ床面積

が9,625.79平方メートルとなっております。

4ページをご覧ください。続きとなります。桃井小学校は、明治5年に開校いたしまして、明治43年に現在の地に校舎が完成しております。その後昭和32年に本校から中央小学校が独立いたしまして開校しましたが、平成28年に桃井小学校と中央小学校が統合されました。一旦中央小学校の校舎を使いまして、その後桃井小学校の改築が始まり、平成30年度より授業が開始となっております。

右の四角囲みの中に現校舎の整備費用を記載しております。建築工事で22億3,560万円から始まりまして、旧校舎の解体まで含め総額28億6,054万2,000円となっております。整備手法につきましては従来型の工法となっております、一般競争入札により業者が決まっております。

5ページをご覧ください。複合化・多機能化の現状となります。赤い線の丸で囲んでおります図工室、音楽室2、音楽室1、こちらは通常は児童たちが使っている教室となりますが、児童が帰宅した後の平日夜間や土曜、休日は、コミュニティセンターの一部の機能として共用のスペースとなっております。また、地域の解放をされている時間帯におきましては、図工室より左側は利用者が入れないような動線が区切られている形となっております。

6ページをご覧ください。現場の写真となります。右側の写真にあります扉は、学校とコミュニティセンターを区切る扉となっております。この写真は、コミュニティセンター側から学校校舎側へ向いた様子となっております。児童が在籍している時間帯は、手前のコミュニティセンター側から扉の向こう側にあります学校側へ行くことはできない形となっております。平日夜間や土曜、休日などの地域解放時のみこの扉が利用可能となっております、地域解放時の利用者につきましては、図工室、音楽室等を利用した後、この扉を施錠して鍵をポストへ投函して帰宅する形となっております。

7ページをご覧ください。今度は逆に学校側からコミュニティセンター側へ向いた写真となっております。児童の在籍時、非常時を除きまして、学校側からコミセン側へ人が向かうことがないよう、ご覧のように施錠がされている状態となっております。

8ページをご覧ください。こちらは建物の1階にありますコミュニティセンターの入口となります。コミセン利用者は、児童が使う昇降口ではなく、全く別の場所にありますコミセン入口から建物内へ入るようになっております。つまり児童とコミセン利用者の動線が交差することはない造りとなっております。

9ページをご覧ください。今度は校舎の中の様子となります。児童たちが使う昇降口の正面には大きな階段があり、この階段を上って2階部分は音楽テラスとなっている現状があります。マーチングバンドの発表の場として活用されているということでした。

10ページをご覧ください。今度は教室の様子となります。ご覧のように廊下と教室の間は、壁ではなく、引き戸で区切られておりまして、写真のように引き戸を開くことで教室と廊下がつながり、開放的な空間となっております。教室自体は、私の印象となりますが、町内の学校に比べて横方向、左右にやや広い印象を受けてきました。

11ページをご覧ください。今度は体育館の様子となります。ステージ奥にガラス戸を設置し、校庭と学校の象徴であります大イチョウを見ることができます。学校解放事業として体育館を一般利用に供する時間帯があり、その際は左下の写真にあります体育館独自の一般利用者入口から出入りするような形

となっております。すぐ近くにコミセンがありますが、コミセンと学校解放時の入口は異なる形となっております。学校解放事業はコミセンの所管の事業ではないため、人の動線を切り分けているといった形になっておりました。

12ページをご覧ください。複合化するに当たりまして地域の防災拠点としての活用を見込んだため、体育館ステージ奥のガラス折れ戸につきましては、災害時に車を横づけし、物資の搬入が可能な形となっております。一方、校庭の砂が折れ戸のレールに入り、開閉がスムーズにいかないときもあるといった問題点も把握してきました。

13ページをご覧ください。報告内容の最後となりますが、質疑応答の結果概要となります。まず1点目、行政から学校の統合の必要性について考えを公表し、統合しないという結論もありと伝えた際の地域の方々の反応はといった質問に関しましては、子どもたちの学習環境を整えましょうという総論は、地域の方々皆同じ思いでしたので、強い反発はなかったとのことでした。また、桃井小学校区、中央小学校区の両地区にあるそれぞれの自治会やPTA、同窓会にそれぞれの考えや思いがあり、合意に向けて折り合いがつかないときもあったが、子どもたちの学習環境のための統合という視点で合意することができた。その結果として、両地区の大人たちの新たなつながりも増えたといった形での回答をいただいております。

次の点は、複合化・多機能化したことの効果について質問しております。コミュニティセンターの所長がコミュニティスクールの構成員となっておりますことから、それがきっかけで地域と学校の関係づくりができるといったお答えをいただいております。具体例としましては、6年生が商店会を通じて職場体験を行っているということで、通常は中学生が行うものですが、桃井小学校は商店会の協力をいただき6年生の段階で職場体験ができているということでした。2つ目の例といたしましては、子ども食堂の大人版、子どもたちが大人をもてなすイメージ、これの構想が現時点ではあるといったことでした。3つ目としましては、地域の文化であります能を習う、こういった形の活動も進められているといったことがありました。

次の質問では、コミセン利用者のクレームや要望が学校側へ入ることはないのかといった質問については、現状はないといったご回答でした。複合・多機能化施設としてルールは特段定めてはおりませんが、現状はきちんと役割分担ができているといった回答をいただいております。

次の14ページとなります。学校敷地内にコミュニティセンターがあることで心配な点はといった質問につきましては、コミュニティセンター利用者の車と通級指導教室に通う子どもの送迎用の車の駐車場が近いので、両者の動線が交差することが心配な点という回答をいただいております。

続く質問は、複合・多機能化した施設を使用してみても改善点があれば教えてほしいといった質問をしております。建物の1階にごみ収集車が入ることになりますが、その際に車高が高く屋根と接触しそうな点があるため、そこは注意、つまりもう少し1階の階高が高いほうがよかったといった感想をいただいております。旧中央小学校と桃井小学校からはどの程度距離があるのかといった点につきましては、1.5キロ程度の距離がありまして、徒歩では15分から20分ほどの回答をいただいております。旧中央小学校の跡地は現在どうなっているのかといった質問に関しましては、市長部局においてサウンディング調査を実施しまして、医療系の大学が新たにキャンパスを建てることになっているということで、既

に契約済みとのことでした。複合化に当たり敷地を増やすことはあったのかといった質問につきましては、元の敷地を活用しているため変更はないといった回答をいただいております。

最後の15ページをご覧ください。複合・多機能化施設を建てるに当たり、教育委員会と市長部局との合同プロジェクトチームを結成したのかという問いに関しては、コミュニティセンターを所管する生涯学習課は、教育委員会内の部署であるため、市長部局との合同チームは結成していないという回答でしたが、避難所機能があるため市長部局の防災部局との協議は行ったといった回答をいただいております。

続く質問は、校舎はガラスを多く採用しているが、事故などなかったのかといった質問をしておりますが、強化ガラスを採用し、飛散防止フィルムを貼っているとの回答をいただいております。

最後の質問ですが、校舎内に大きな階段が吹き抜け状で設置されているが、子どもの転落事故はないのかという質問に関しましては、これまでにないといった回答をいただいております。

私からの視察の結果報告については以上となります。よろしくお願いいいたします。

**【横手委員長】** 説明が終わりました。これより質疑に入ります。質疑はございませんか。

柳田委員。

**【柳田委員】** 3ページに、複合化されたところで、桃井小学校とコミュニティセンターと消防分団、中央小が売却か譲渡されているんですかね。そういったところで、結果として複合施設にしたので、敷地面積、延べ床面積などが縮小されて、建設コストだとか、維持管理のコスト縮減につながっているんだなと思いました。複合化の事例として、寒川町に例えると南小だとか、一小だとか、南部公民館だとか、令和10年代に整備が予定されている南部の分署など、立地条件が似ているのかなと、都市計画図を見ると商業地域で、それは違うけど、容積率400、建ぺい率80だったので、5階建てぐらいは建てられるのかなと思ったんですけど、3階建てで低層に造られている点なども似ているなど、延べ床も南小は8,000ぐらいなので、ここには9,000と書かれているので、似ているなと思いました。同じように縮減することで建設費用だとか、敷地面積だとか、そういったところが縮小されて効率化されるのと同じメリットがあると思うんですけど、そこで質問なんですけど、今回視察された理由として、町の公共施設の課題を踏まえた上で、なぜこの学校を複合化の事例として視察先に選定されたのか、選んでそこに行っただのかという目的をお伺いします。

**【横手委員長】** 杉崎課長。

**【杉崎資産経営課長】** 今回の視察は、教育委員会がこの学校を選択している形になっています。私たちは同行させていただいたという形になっております。ただ理由としては、複合化して先進事例であるといった形でここを選択したと把握しております。

**【横手委員長】** 柳田委員。

**【柳田委員】** あと、資料を見る限り、消防の分署が入っているんですかね、学校に。そうすると災害時だとか、避難所とかにもなるでしょうし、防災拠点としての機能も強化されます。あとも消防隊員の方が毎日いるとなると、防災教育だとか、児童との交流が生まれるので、地域力の向上とかにも寄与するのかなと思います。また、コミュニティセンターがあるので、子どもから高齢者まで日常的に顔を合わせる多世代の交流の場となっている点なども定性的に評価、公共施設としては評価できるのかなと思います。そこで定量面でも質問したいんですけど、実際に放課後だとか、休日も教室や体育館が利

用されているのか、消防がどの範囲、例えばずっといるのだったら24時間施設にいると思うんですけど、定量的に複合化によってどれぐらい稼働率というのは実際に上がったのか、もし分かればお伺いします。

【横手委員長】 杉崎課長。

【杉崎資産経営課長】 まず、消防につきましては、消防分団になりますので、消防の職員が常駐しているということをごさいませんでした。それから稼働率等につきましては、詳細は把握しておりませんが、視察に行った日に関しましては、第1コミュニティセンターのホールでダンスの活動をされている姿を見てまいりました。

【横手委員長】 柳田委員。

【柳田委員】 3問目、最後にコスト面でお伺いしたいんですけど、公共施設を個別に建て替える場合と比較すれば、複合化の施設は1つの複合施設を集約して新しく造るので、大規模改修だとか、更新を一括で行えるので、事業費を圧縮できたり、一括で造るので規模の経済も働きますよね。また、移転によって生じた余剰地もどこかと契約したりだとか、売れば、資産の圧縮だとか、売却収入の確保にもつながります。もし単独で建て替えた場合、維持費もそうですよね。光熱水、清掃費だとか、警備費だとか、修繕費なども発生してしまうので、複合化することで維持費を一括にできるので長期的なコスト削減効果も期待できます。ここで最後の質問なんですけど、桃井小と旧中央小学校と旧コミュニティセンター、または消防だとか、それぞれ単独で建て替えた場合と比較して、複合化によって更新費だとか、維持管理費がどの程度削減されたのか、もし分かればお伺いします。

【横手委員長】 分かれば結構です。

杉崎課長。

【杉崎資産経営課長】 詳しい数字は把握しておりません。前橋市の公共施設マネジメントとの関連を調べますと、ホームページから私が拝見しただけの話になりますので、若干事実との差異はあるかもしれませんが、国からの総合管理計画の策定要請が平成26年4月、前橋市の施設総合管理計画の策定が平成27年8月といった形で、公共施設マネジメントが進められてきています。一方で、学校の適正化の動きにつきましては、平成20年度に前橋市立小中学校適正規模・適正配置基本方針といったものが定められまして、物理的な統合が初めてあったのが平成23年度、第二中学校と第四中学校を統合してみずき中学校を造ったといった形が実例としてありますので、施設マネジメントとして行われたというよりは、学校規模の適正化・適正配置の面で本事業が進められたのではないかなと私は理解しております。

【横手委員長】 ほかに質疑のある方は。

山田委員。

【山田委員】 学校ということで、今回中央小学校と桃井小学校が統廃合されているわけですけど、これに関して説明の資料では、学校が約1.5キロ程度離れているということがありましたけど、旧中央小学校から桃井小学校まで最長でどのぐらいの通学の距離があるのかというのは……。

【横手委員長】 通学範囲の距離ということですか。分からないですね。分かりますか。

杉崎課長。

【杉崎資産経営課長】 細かな数字までは把握しておりませんが、今回私たちが教育委員会の視察に同行させていただく形ですので、私と芳賀と一緒に行ってきましたが、公共施設マネジメントの視点で

私は現場を見てきておりますので、そちら側の話は詳しくは聞いておりません。

以上です。

【横手委員長】 ほかに質疑のある方。

(「なし」の声あり)

【横手委員長】 では、これをもって質疑を終結いたします。大変お疲れさまでした。暫時休憩いたします。

---

【横手委員長】 休憩を解いて会議を再開いたします。

続きまして、案件2、その他であります。委員の皆様から何かございますでしょうか。

(「なし」の声あり)

【横手委員長】 事務局からは。

(「なし」の声あり)

【横手委員長】 私から1点。この間ちょっとだけ話が出たんですが、まだこれは不確定なんですけども、皆さんで一回、近場で視察できる場所を探してもらって、できることだったらいろいろ説明を受けながら視察したいと考えております。もちろんなるべく、ほとんどお金のかからない状態でやりたいので、日帰りの近場になりますが、それを探り探りやっておりますので、決まりましたら皆様にご報告させていただきたいと思っておりますので、何とぞよろしくお願いいたします。

それでは、以上で全ての案件が終了いたしました。

これをもちまして、公共施設再編整備対策特別委員会を終了いたします。最後に副委員長からご挨拶をお願いいたします。

【橋本副委員長】 皆様、お疲れさまでした。

以上で、公共施設再編整備対策特別委員会を終了いたします。ありがとうございました。

午後1時36分 閉会

---

寒川町議会委員会条例第27条の規定により、ここに署名する。

令和 8年 2月 24日

委員長 横手 旭